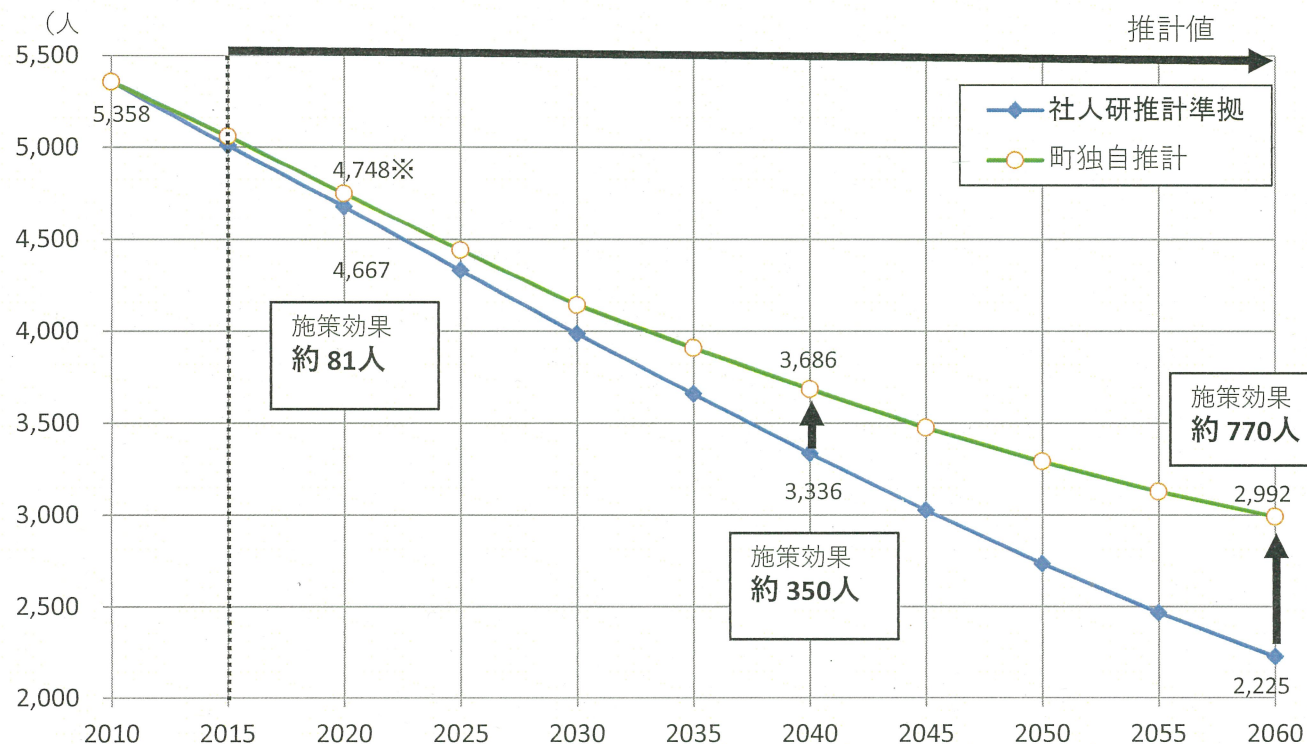


にぎわいのある空間

- ①「ストップ少子化・地方元気戦略 2014年日本創生会議（増田寛也座長）」の中で2040年における全国自治体の将来推計人口を発表。全国1,800市町村のうち523の自治体が「**消滅可能性都市**」と位置づけられ、残念ながら**小清水町が該当**している。
- ②日本創生会議推計の基礎資料となった国立社会保障・人口問題研究所における小清水町の推計人口は、2040年に3,336人、2060年には2,225人。
- ③人口減少の影響は、病院の撤退、ガソリンスタンド、店舗数の減 ⇒ 「町がなくなる！」

●「**何もしなかったら町がなくなる**」という危機感のもと、人口減少率を緩やかにすべく「小清水町まち・ひと・しごと創生総合戦略（2015.11）」を策定
 3つの理念「新しい人の流れ・定住促進」、「結婚・出産・子育て」、「雇用の創出」により基本的方向を定め、今すぐにでも取り組むべき施策を決定・実施



※R1年12月1日住基人口 4,802人/1.01120943952(2015.12.1住基人口(5142人)/2015年度国勢調査値(5085人))

◆主な取り組み（内閣府採択事業）

【観光】「新しい人の流れ・定住促進」
 ・BWを起爆剤とした欧州インバウンド受入
 実績：雇用増 +10名
 交流人口 +25万人



【農業】「雇用の創出」
 ・農業担い手育成プロジェクト
 実績：雇用増 +15名



● 「にぎわいのある空間」の必要性 = 「住んで良かったまち・住んでみたいまちづくり」

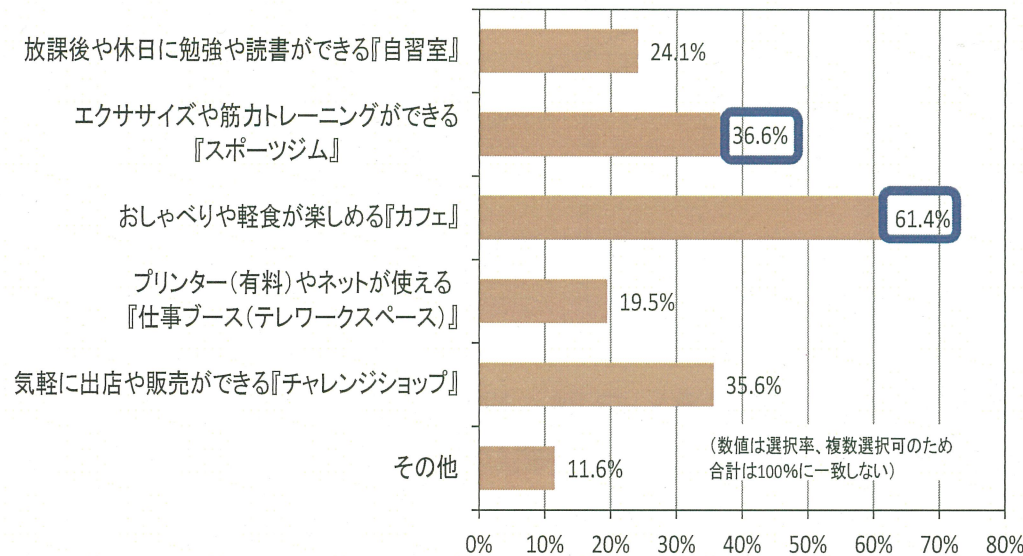
※魅力のあるまちづくりを進め、人口流失の防止と移住・定住促進を図る！

本格的な少子・高齢化社会を迎え、本町においても人口減少とこれに伴う空き店舗等の増加により、人との繋がりが中心市街地の活気が弱まりつつあります。

人が集い、人と人の交流が生まれる「にぎわい」でコミュニティの再生と中心市街地の活性化を図る。

■ 庁舎に希望する機能

人々が集まり、便利に暮らすために庁舎に希望する機能として3つまで選択【第6次小清水町総合計画アンケートN=345】



■ 小清水町の地方創生事業【重点P】

観光 ⇒ 浜小清水エリアを中心に関係人口の拡大

事業主体：小清水町観光協会

産業 ⇒ 農業担い手対策を高校跡地で本格化

事業主体：JAこしみず

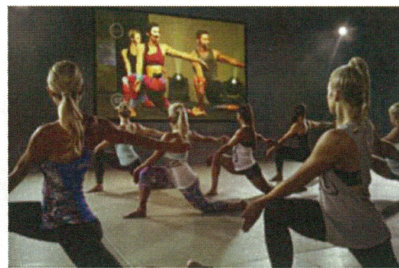
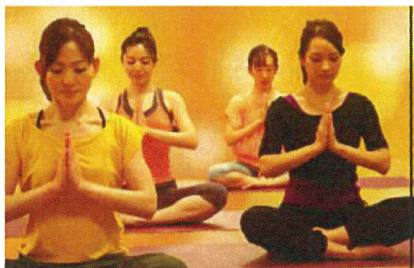
コミュニティ ⇒ 役場庁舎を拠点にコミュニティ再生と市街地の活性化

事業主体：小清水町商工会を想定

● 「にぎわいのある空間」に設ける機能案（小清水町防災拠点型複合庁舎建設検討委員会答申より）

(1) フィットネスクラブ

- ・子供から高齢者までいつまでも健康で充実した生活
- ・健康増進、介護予防など楽しみながら健康寿命の延伸を



(2) カフェ

- ・老若男女が幅広く集い交流を
- ・待ち時間を有意義に活用



(3) コインランドリー

- ・洗濯労働の低減で生まれる自由
- ・観光客を市街地へ誘引

